

コニカミノルタ株式会社

2020年（平成32年）3月期 第3四半期 決算説明会

主な質問と回答

日時：2020年2月3日（月）17:30～18:30

場所：野村コンファレンスプラザ日本橋

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績に関して】

Q. 新型コロナウイルスの影響はありますか。

A. 新型コロナウイルスの影響が甚大な湖北省に当社の主要な生産や、販売拠点はありません。現地の生産・販売活動につきましては、中国政府、地方当局の指示・指導に従いまして運営中です。また、当社のwebページにて随時、情報開示しておりますので、ご参照ください。

コニカミノルタ Newsroom “中国における新型肺炎の影響について”

<https://www.konicaminolta.com/jp-ja/newsroom/topics/2020/0131-04-01.html>

Q. 構造改革について、当期に費用で予定している86億円で取り組むべきことはある程度完了したのでしょうか。また、来期に構造改革の費用が計上されることはあるのでしょうか。

A. 構造改革は主にオフィス事業を中心に、業務の効率化や簡素化による管理・間接人員の削減、消耗品部品のロングライフ化、加えて、事前の故障予知機能の強化、リモートメンテナンスの推進によるサービス人員の削減、地域再編による合理化等々の人員削減を計画しており、予定通りに進捗しています。来年度に追加の費用がかかることは現時点では想定していません。

【事業に関して】

Q. 今回、オフィス事業は業績予想の変更がなかったのですが、見通しに対して、3Qの実績が弱く見えます。4Qにかなり改善することを見込んでいる要因について説明してください。

A. オフィス事業の前年対比で、製造原価低減の効果はまだこれからですが、前四半期で米国の販売が伸びなかったことについては金融緩和などで正常化してきています。また、3QはSeg4 カラー機のローンチを前に端境期となり、従来機の販売で粗利率が苦しかったという状況がありました。

Q. プロダクションプリントの販売台数が、カラー機は増加し、モノクロ機は減少している状況で増収となっている理由を教えてください。販売開始してすでに2年経過するIQ-501の価値が訴求できているとのことですが、3Qで何かバージョンアップなどの変化があったのでしょうか。

A. 前四半期は、他社から価格面で押されていましたが、3Qは差別化としてIQ-501をバンドルするような形で再強化したことで特に米国市場で価格を落とさずにお客さまの理解が得られることができ、売上伸長しました。

Q. 決算資料 p.10 のハードの販売台数とノンハードの推移について。一般的にはハードの販売台数が伸長した後にノンハードの売り上げがついてくるとイメージしているのですが、FY18は販売台数が伸びた後、販売台数が減ると連動してノンハードも減っているように見えます。3Qは、Seg4 カラー機の販売台数が増加していますが、今後のノンハードはどのように関連してくると理解すればよいのか教えてください。

A. ハード設置からおおよそ3ヶ月後にノンハードに影響するとこれまでの経験値からみています。今回、Seg4 カラー機が前年対比で苦戦しているのはプリントボリュームよりもクリック単価の下落が影響しています。決算資料 p.28 を見ると、中印でノンハードを大きく伸ばしていますが、3Qは欧州も大口案件の設置が進んだ効果が出てきています。

Q. 今後、利益が大きく変動しそうなのは産業用材料・機器事業と考えています。計測機器では、中小型OLEDがもう一度増え、機能材料もシェアを拡大していると思うが、当期の見通し+3%の伸びより強くなるでしょうか。

A. 産業用材料・機器事業の営業利益率は17-8%にありますが、注力している領域であり、次のステージに持っていきたいと考えています。機能材料は一時的なパネル在庫調整の影響を受けていますが、新樹脂製品のSANUQIで来期以降はよりビジネスを拡大していきたいと思っております。計測機器も買収したEines社も含み外観計測のビジネスを拡大していき、光と色計測のビジネスも含め伸ばしていきます。

Q. 修正された新規事業の業績予想について、内訳を教えてください。

A. 状態監視とケアサポートソリューションのトップライン進捗に遅れがあり、また、バイオヘルスケアのケアプログラムが遅れを考慮し、トータルでマイナス20億円としました。ワークプレイスハブは、前四半期に修正した計画値にそって進捗しています。

Q. バイオ事業について、トップラインのQoQはそんなに伸びていないが損益が大きく改善している理由を教えてください。4Qについてどう進むかについても教えてください。仮にトップラインが届かなくても利益は達成するのでしょうか。

A. インフラの整備遅れでケアプログラムの展開に遅れがありましたが、4Qはパートナーとの連携が始まり加速していきます。また、収益挽回の施策を3件着手しており、4Qの収益も改善すると見えています。

以上